

平成 14 年度新農薬実用化試験（旧一般委託・連絡試験）で注目された病害虫防除薬剤

社団法人日本植物防疫協会試験事業部 あらい ますみ かどた けんご
新井 真澄・門田 健吾

平成 14 年度の新農薬実用化試験（旧一般委託・連絡試験）は、10 月 22～23 日に開催された茶分野成績検討会を皮切りに、稲麦・野菜関係の各地域成績検討会並びに総合判定会議、果樹や芝草など分野別の成績検討会が順次開催され、12 月 17～18 日の生物農薬分野成績検討会まで、依頼された薬剤の各種病害虫に対する効果や薬害、使用方法の検討が行われた。

ここでは、平成 14 年度に依頼された試験の中で、注目された薬剤並びにその傾向等について紹介する。

I 新農薬実用化試験の動向

〔殺菌剤〕

本年度に依頼された試験薬剤は 224 剤（生物農薬・展着剤を除く）で、複数の作物、病害に対してのべ 1995 件の試験が公的試験研究機関等で実施された。薬剤数は昨年とほぼ同じであったが、総受託件数はわずかに増加した。試験薬剤中、受付時に登録のなかった新規化合物を含む薬剤数は全体のおよそ 16% で、例年より若干少なくなった（図-1）。

稲ではストロビルリン系化合物のオリサストロビン、抵抗性誘導を作用機作に持つチアジニル、プロベナゾール剤およびそれらとの混合剤の試験例数が多く、特に播種時から移植直前までに使用する箱処理剤が非常に多かった。なお、抵抗性誘導を作用機作に持つ剤については白葉枯病を対象とする試験依頼も多いが、これらは試験場所が限られることから実施された試験は少なかった。

野菜関係で受託された試験件数は、昨年度に比べ約 2 割の増加となった。増加の要因として、関係会社の整理統合、TPN との混合剤、リドミル DC 顆粒水和剤（メタラキシル+TPN）、SYJ-117 SC（アゾキシストロビン+TPN）、プロポーズ顆粒水和剤（ベンチアパリカルブイソプロピル+TPN）などが広範な作物・病害に試験を展開したことがあげられる。

また、今年度から実施された新規化合物の KUF-1204 顆粒水和剤が、灰色かび病、菌核病を対象に多く

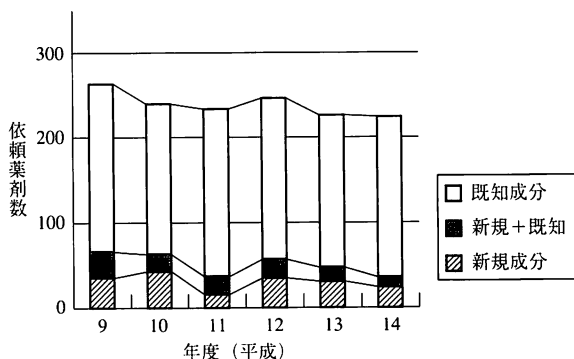


図-1 殺菌剤効果試験依頼薬剤数の推移

の作物で試験されたこと、3 年ほど前から登場している MTF-753 フロアブルが、本年度さらに多くの病害で試験されたことも増加の要因であった。MTF-753 フロアブルは三井化学(株)で開発された全く新しい構造を持つ化合物で、最近ベンチオピラドと名付けられ ISO 申請中である。本剤の作用機作は明らかにされていないが、既存剤に耐性をもつ灰色かび病やうどんこ病などにも効果を示すと説明されている。

落葉果樹、寒冷地果樹、常緑果樹、茶、芝草を対象とした試験件数は昨年とほぼ同程度であった。生物農薬に関しては別項に詳しく述べるが、新規製剤 4 剤が加わり、過去最も多い 15 薬剤について各種作物病害に試験が行われた。大きく分類してみるとバチルスによる灰色かび病、うどんこ病を防除対象とするもの、シュードモナス、トリコデルマなどでイネの種子消毒を対象とするもの、または各種菌で土壌病害を対象とするもの、の三つがあり、それぞれの菌の特性を活かした処理方法などが検討されている。

〔殺虫剤〕

本年度依頼された薬剤数は 247 剤で（生物農薬・展着剤を除く）、それぞれ複数の作物・害虫に対して延べ 2,985 件の試験が実施された。新規成分の単剤は 43 剤で、過去 3 年 50 剤程度だったのが若干減少した（図-2）。

試験分野別に見ると、稲・麦関係では、殺虫殺菌剤混合の育苗箱施用剤を中心に、さまざまな処理方法で昨年も増す件数の試験が実施された。野菜関係は、ダントツやスタークル（アルバリン）、アクタラなど新規ネオ

The Remarked Pesticides for the Efficacy Study in Japan (2002). By Masumi ARAI and Kengo KADOTA

（キーワード：殺虫剤、殺菌剤、JPPA、新農薬実用化試験、平成 14 年度）

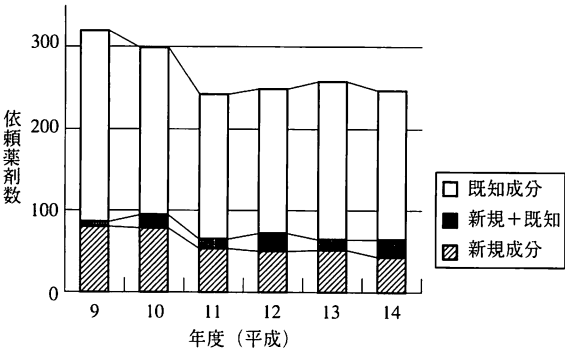


図-2 殺虫剤効果試験依頼薬剤数の推移

ニコチノイド剤が平成 14 年度中に登録を取得し、200 件ほど減少した。しかし、選択性の高い剤を中心に新規化合物の試験は実施されており、今後の動向に注目したい。果樹・茶関係ではほとんど昨年と変化がなかったが、芝草関係は大幅に減少した。

II 注目される新規化合物を含む薬剤

〔殺菌剤〕

平成 14 年度に試験された新規化合物を含む薬剤（生物農薬を除く）は 36 剤で、単剤は 24 剤、混合剤は 12 剤であった。これらのうち本年度初めて依頼のあった成分は 5 剤であった（表-1）。例年に比べやや少ない傾向にあった。

このうち KUF-1204 顆粒水和剤（クミアイ化学(株)）は成分名および作用機作の詳細は明らかにされていないが、幅広い防除スペクトルを有し、特に灰色かび病、菌核病に高い防除効果を示す。胞子発芽、菌糸伸長等を阻害し、植物への浸達性に優れることから高い治療効果を有する。

〔殺虫剤〕

平成 14 年度に初めて依頼があった化合物は 4 種類であった（生物農薬は除く、表-2）。また、未登録の新規化合物を含む薬剤は 63 剤（剤型別）で、昨年とほぼ同様だった。以下、注目されるものをいくつか示す。

ダニサラバフロアブル（旧 OK-5101 フロアブル（大塚化学(株)）は、浸透性は見られないものの、高い防除効果が認められ、本年アウトウで実用性ありの判定を受けた。SI-0009 乳剤（三共(株)）は、コナジラミ類・アザミウマ類・各種鱗翅目・ハモグリバエ類と広範な殺虫活性を有する剤で、本年キャベツのアオムシで実用性ありの判定を受けた。

また、今年新たに試験実施された薬剤は 5 剤だった（表-2）。そのうち、NNI-0101 顆粒水和剤（日本農薬

表-1 平成 14 年度に初めて依頼のあった新規化合物（病害防除）

薬剤コード・成分	依頼作物・病害	備 考
AVF-001 SC 480 g/l	バレイショ：疫病	浸透移行性を有する
KIF-23 水和剤 20.0%	イネ：もみ枯細菌病・ 苗立枯細菌病・ ばか苗病（種子消毒）	種子伝染性病害に対する スペクトルが広く、特に 細菌病に対して高い効果 を示す また毒性も低く非常に安 全性が高い
KUF-1204 顆粒水和剤 40.0%	豆類・野菜類： 灰色かび病・菌核病 ブドウ・カンキツ： 灰色かび病	幅広い防除スペクトルを 有し、胞子発芽、菌糸伸 長等を阻害する 浸達性に優れる
MBF-123 0.5%	キュウリ：うどんこ病	食品添加物
NGF-021 液剤 10.0%	キュウリ・イチゴ・バラ： うどんこ病 キク：白さび病	食品添加物
OK-5203 乳剤 2.0%	ナス・キュウリ・イチゴ： うどんこ病	新規骨格を有し、うどん こ病に対して予防、治療 効果が認められる

表-2 平成 14 年度に初めて依頼のあった新規化合物製剤（殺虫剤）

薬剤コード・成分	依頼作物・害虫	備 考
NNI-0101 顆粒水和剤 20%	ナス、トマト、ネギ、リンゴ、 茶：アブラムシ類、カイガラ ムシ類、コナジラミ類、ヨコ バイ類、チャノキイロアザミ ウマ、ネギアザミウマ	半翅目・アザミウマ目対象 に速効的な定着阻害作用を 示す。低温時には死亡まで 時間を要する場合あり 浸透移行性が高い
NNI-0250 フロアブル 25%	ハクサイ、キャベツ：コナガ フロアブル	速効的な食害阻害効果を示 す
IKA-2002 フロアブル 30.0%	ナシ、リンゴ、カンキツ、茶： ミカンハダニ、リンゴハダニ、 ナミハダニ、カンザワハダニ	ハダニ類のすべてのステー ジに活性を有する。浸透 性・浸達性はなし
OK-5201 水和剤 20.0%	リンゴ：ナミハダニ	ガス効果・浸達性はなし

（株）は、半翅目・アザミウマ目を対象に定着阻害効果を有する剤で、本年はアブラムシ類を中心に高い防除効果が認められていた。IKA-2002 フロアブル（石原産業(株)）と OK-5201 水和剤（大塚化学(株)）は、共にハダニ剤で十分な防除効果が認められている。

III その他注目された事項

1 食品添加物を主成分とする薬剤

食品添加物を主成分とする農薬は、デンプン製剤の粘着くん液剤など数剤が、アブラムシやハダニといった虫

害防除を中心に登録を取得して使用されているが、病害防除としては、炭酸水素ナトリウム製剤などに登録があるほかは、注目される分野ではなかった。

しかし、今年、プロピレングリコール脂肪酸エステルを主成分とするアカリタッチ乳剤がキュウリのうどんこ病で、実用性ありと判定された。本成分は菓子類等の気泡化安定剤として使用される食品添加物であり、本剤はミカン、ナシ、ナスの殺ダニ剤として既登録である。この病害に対する作用機作は散布されることにより胞子を洗い流し、その後植物表面上、または胞子自体を本成分が薄く覆うことにより、胞子発芽を阻害したり、植物体上への進入を阻止したりする物理的な作用を持つと一般に考えられており、直接的な病原菌の殺菌力はないと説明されている。それだけに、病勢の急激な進展期など、効果にやや不安定な場面はあるが、過去 2 年間の試験ではおおむね実用的な防除効果が得られている。

このほかのほかに食品添加物を主成分とする剤には F-0511 スプレー（ソルビタン酸脂肪酸エステル）があげられる。本剤はすでに花のうどんこ病やアブラムシ類等で既登録となっているが、今回、野菜類のうどんこ病に試験された。また、MBF-123 (Oligosaccharide)、NGF-021 液剤も食品中に存在する成分と説明され、本年度から野菜類のうどんこ病などで試験実施されている。

これらの剤は、病害ではうどんこ病・灰色かび病、虫害ではアブラムシ・ハダニと、対象病害虫に限られているが、作用機作から耐性菌の出現する可能性も少ないと考えられ、他剤との体系防除においては有用な資材と思われる。昨今の情勢から、新農薬実用化試験において、このような剤が増加するものと予想される。

2 生物農薬（殺菌剤）

生物農薬の殺菌剤は 15 薬剤について検討され、そのうち新規の製剤は 4 剤であった（表-3）。検討課題数は 145 件、昨年とほぼ同じで、対象とされた作物病害は多岐にわたった。このうち実用性ありが出た剤は表-9 に掲載したが、稲の種子消毒剤として KNB-050 水和剤がモミゲンキ水和剤、エコホープに続き登場している。また、モミゲンキ水和剤は生物農薬としてもみ枯細菌病、苗立枯細菌病の種子消毒剤として初めて登録されたことはよく知られているが、今回、本田のもみ枯細菌病防除を目的とした試験が実施された。穂孕後期から開花期の 1 回から 2 回散布の結果、効果が高いことで知られるオキシロニック酸水和剤とほぼ同等の優秀な成績で実用性ありと判定されたのは注目に値する。

また野菜類に目を向けると、各種野菜のうどんこ病に

表 - 3 平成 14 年度に新たに依頼のあった生物農薬

薬剤名	成 分 名	対象病害虫名
(虫害防除) CAS-010 ICB-01 ICB-02 ICB-03 S-4936 SCNB-002 P S-1265 DF SB-7301 粒剤	サバクツヤコバチ チリカブリダニ オンシツツヤコバチ イサエアヒメコバチ ハモグリミドリ ヒメコバチ成虫 チリカブリダニ 糸状菌培養物 バチルス・ チューリンゲンシス菌の 生芽胞および 産生結晶毒素	コナジラミ類 ハダニ類 オンシツコナジラミ ハモグリバエ類 ハモグリバエ類 ハダニ類 ネコブセンチュウ類 コガネムシ類
(病害防除) IK-1140 粒剤	<i>Gliocladium virens</i> 1×10 ⁶ cfu/g	ネギ：白絹病
KUF-1401 顆粒水和剤	<i>Bacillus subtilis</i> 5×10 ¹⁰ cfu/g	トマト・キュウリ・イチ ゴ・カンキツ・ブドウ： 灰色かび病
NR-15 水和剤	糸状菌	イネ：ばか苗病（種子消 毒）
TMBIO-011 水和剤	<i>Trichoderma harzianum</i> 1×10 ⁷ cfu/g	キュウリ：うどんこ病 トマト：灰色かび病

実用性ありが出たボトキラー水和剤と SB-910 水和剤が目立った。いずれもバチルスズブチリスを主成分とするが、同じ病害でも対象とした作物により効果に差が認められた。具体的にはキュウリよりもメロンやピーマンのうどんこ病に高い防除効果が得られている。おそらく作物の生育状況と病害の発生時期との関連によるものと推測されるが、いかにも生物農薬の特性を表しているようで興味深い。

レタスの菌核病に実用性ありと判定された TMBIO-9941 顆粒水和剤の主成分は菌核への寄生菌として知られている *Coniothyrium minitans* である。作物の定植前に本剤を土壤中に処理すると、土壤中の菌核に寄生し、子のう盤の形成を阻害することにより作物への感染を阻止し、菌核病の発生を抑えるというのが本剤の作用機作である。

効果試験実施に当たっては試験を完全な閉鎖系にはできないことから菌核病菌の生活環考えると、（子のう胞子の飛散等）、効果判定の指標となる発病株率において、無処理との差が得られにくいのではないかと心配された。しかし比較的大きい試験面積を設定するなど設計を工夫したことが功を奏してか、十分な発病差が見られ、実用的な防除効果が得られることが証明された。

表-4 平成14年度にトマトハモグリバエに実用性ありと判定された農薬

作物名	薬 剤 名
トマト	MTI-446 粒剤1, モスピラン粒剤
キュウリ	アクタラ粒剤5, アファーム乳剤, カスケード乳剤, トリガード液剤, スピノエース顆粒水和剤, マイネックス91
メロン	アクタラ粒剤5, アクタラ顆粒水溶剤, カスケード乳剤, コロマイト乳剤, ダントツ水溶剤, トリガード液剤, スピノエース顆粒水和剤

表-5 平成14年度に実施された特別連絡試験

特別連絡試験名	作物：病害虫	目 的
アクタラ粒剤	イネ：斑点米カメムシ類	本剤の有効な成分投下量と処理時期を検討する
コンフューザーV	野菜：鱗翅目害虫	合成性フェロモンで交信かく乱効果を有する本剤の実用性を検討する
TI-435 H 粉剤DL	イネ：斑点米カメムシ類	従来2～3回必要な穂ばらみ期以降の散布を、成分含有量を増加し長い残効性が期待される本剤を使用し、1回に低減する
プレオフロアブル	ナス・トマト・ピーマン・イチゴ・キヤベツ・レタス：オオタバコガ・ハスモンヨトウ	大型鱗翅目害虫に卓効を示し、有用生物に影響が少ない、本剤の特徴を活かした総合防除体系（IPM）を確立する
嵐箱粒剤（BJL-002 粒剤）	イネ：いもち病、紋枯病	1成分で主要病害であるいもち病と紋枯病を同時に防除でき、なおかつ長期間効果が持続するとされる。現在登録申請中の本剤の効果の持続性とそれを考慮した体系防除を検討する
モミゲンキ水和剤（種子消毒）	イネ：もみ枯細菌病、苗立枯細菌病	本剤は水稻の種子消毒剤としては初めての生物農薬である。各県の育苗現場に合わせた処理条件、または他剤との体系処理を検討する
エコホープ（種子消毒）	イネ：ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、いもち病、ごま葉枯病	イネの種子消毒を対象とした生物農薬で、15年1月に登録された。普及に向けての適正な使用方法の確立と問題点の抽出を行う
ブイゲット粒剤	イネ：いもち病	植物の病害防除機能を増強する作用機作をもつ浸透移行製剤で、現在登録申請中である。葉いもち防除を中心とした処理時期の違いによる効果の比較を行う

3 生物農薬（殺虫剤）

殺虫剤分野は32剤について143件が試験された。薬剤数は前年とほとんど変化なく、件数は若干の増加がみられていた。新規剤は7剤だったが、そのうち、S-4936（ハモグリミドリヒメコバチ）とS-1265 DF（糸状菌培養物）の二つだけが新しい成分だった（表-3）。

なお、本年度新規登録された生物農薬は、新規天敵昆

表-6 最近名称に変更のあった主な薬剤

旧薬剤名	変更後名称	成分名・量
（殺虫剤）		
OK-5101 フロアブル	タニサラバ フロアブル	新規化合物 20.0%
オルトラン顆粒水溶剤95改良	ALI-022 顆粒水溶剤	アセフェート 95.0%
AVI-210 SC	AVI-382 SC	エチプロール 10.0%
YE-621 液剤	エコピタ液剤	還元でんぶん糖化合物 60.0%
（殺虫・殺菌剤）		
Dr. オリゼスタークル粒剤	Dr. オリゼスタークル箱粒剤	ジノテフラン 2.0% プロベナゾール 24.0%
NOJ-121 粒剤	デジタルコラトップアクタラ箱粒剤	ピロキロン 12.0% チアメトキサム 2.0%
AM-1031 粒剤	ビルダープリンスグレートラム粒剤	フィブロニル 1.0% チフルザミド 3.0% プロベナゾール 10.0%
（殺菌剤）		
BJL-002 粒剤	嵐箱粒剤	orysastrobin 7%
KF-27 フロアブル	ピオネクト	8-ヒドロキシキノリン銅 30%, 脂肪酸グリセリド 55%
KUF-1001 顆粒水和剤	マモロット顆粒水和剤	ベンチアバリカルバイソプロピル 15%
KUF-1201 顆粒水和剤	プロボーズ顆粒水和剤	ベンチアバリカルバイソプロピル 5.0%, TPN 50.0%
NNF-9850 粒剤12	ブイゲット箱粒剤	チアジニル 12%

虫・微生物製剤ではエルカール（サバクツヤコバチ）・ナミトップ（ナミテントウ）・ボタニガード ES（ボーベリア・バシアーナ）の3剤、ほかは成分としては既知のヒメトップ（イサエアヒメコバチ）・メリトップ（ククメリスカブリダニ）・コレトップ（コレマンアブラバチ）・チリトップ（チリカブリダニ）が（株）キャッツ・アグリシステムズより登録された。

4 セル苗に発生する病害

平成13年度に当協会で行ったシンポジウム「セル成型苗と病害虫防除対策」でも紹介したが、野菜栽培の育苗においてセル成型苗が盛んになるにつれ、新たに問題となっている病害がある。

キャベツの黒すす病は種子伝染性病害であり、また大量の胞子を形成するために苗が密集するセル成型苗のような環境は発生に好適な条件である。

ポリオキシシン AL 水溶剤は浸漬による種子消毒、播種時、子葉展葉期ころのセルトレイへの灌注処理で、本年度キャベツ黒すす病に対し効果が高く、いずれも実用性

ありと判定された。

黒すす病に限らず、今後セル苗を意識した処理方法で試験される薬剤が多くなると考えられる。

5 トマトハモグリバエ緊急対策

トマトハモグリバエは、平成 11 年に沖縄県で初発が確認されて以来、年々発生地域を拡大し、平成 15 年 1 月現在で全国 32 都府県で発生が認められる侵入害虫である。本種は従来発生していたマメハモグリバエやナスハモグリバエと形態・被害ともに判別が難しいうえ、これまでハモグリバエ類が問題とならなかったウリ科植物を中心に多発生が認められ、現場で大きな問題となっている。

このような状況から、トマトハモグリバエについては、農林水産省植物防疫課と協議のうえ、「緊急的な措置が必要な害虫」として、平成 13 年度から効果試験における実用性の判定を行ってきた。この措置を引き継ぎ、本年は「トマトハモグリバエ特別連絡試験」として、集中的に検討を行い、3 作物、延べ 13 剤が「実用性あり」と判定された（表-4）。

また、こうした緊急的な取り組みの結果、メロン：トマトハモグリバエにダントツ粒剤、アフーム乳剤が、

トマト：ハモグリバエ類にトリガード液剤、スピノエース顆粒水和剤、ハチハチ乳剤が、登録を取得した。

6 特別連絡試験

当協会では、普及場面での使用方法や体系防除における位置づけ等を集中的に検討する連絡試験も扱っており、病害防除分野では、ここ 4～5 年は長期間効果の持続する箱処理による稲のいもち病防除をテーマにした特別連絡試験を多く開催し、虫害防除分野では体系化による総合的な防除方法の検討が行われている。今年度は殺菌剤殺虫剤併せて 8 課題が組まれたことから紹介する（表-5）。

IV 最近名称に変更があった薬剤

多くの薬剤は、初めて委託に出されるときにはコード番号などを薬剤名として使用しているが、登録に伴って商品名が命名される。また、商品名が付けられる前に何らかの事情で名称変更される事もあり、過去の試験と比較する時、戸惑うこともある。そこで、最近名称に変更があった薬剤の一覧表を作成した（表-6）。比較検討時の参考になれば幸甚である。

表-7 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋（病害防除：イネ・ムギ）

作物名	病害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
イネ	いもち病	1201 フロアブル, 1471 粒剤, 1472 粒剤, AMH-231 粒剤, BA-1 粒剤, BA-2 粒剤, BT-1 粒剤, HM-2022 粉 剤 DL, KUF-1402 粉 剤 DL, KUM-021 粉 剤 DL, KUM-022 粉 剤 DL, KUM-023 粉 剤 DL, MMH-2201 顆粒水和剤, MTI-142 粒剤, NNF-9850 フロアブル 30, S-8540 粒剤, TM-1510 粒剤, YIF-6481 フロアブル, ウィンアドマイヤー顆粒水和剤, オリブライト 60%粒剤, デラウストレボン粉剤 DL, デラウス顆粒水和剤, ビームプリンスグレート箱粒剤, ビルダープリンス粒剤, プラシダントツ粉 剤 DL			KUM-023 粉 剤 DL, SF-0101 粒 剤, SSF-134 粒 剤, TI-435 H ブラシ粉 剤 DL, オリブライト スタークル 1 キロ粒 剤
				変色米（アル タナリア菌）	KUM-022 粉 剤 DL
				変色米（カー プラリア菌）	KUM-022 粉 剤 DL, アミスターアチーブ粉 剤 DL
				もみ枯細菌病	ブイゲット箱粒 剤
				白葉枯病	ブイゲットプリンス粒 剤 10, ブイゲット箱粒 剤
				苗立枯病（リ ゾーブス菌）	SB-3611 水和 剤
	いもち病(穂)	SSF-134 粒 剤		ごま葉枯病 (種子消毒)	ヨネボン
	いもち病(葉)	カスミンボルドー顆粒水和 剤			
	紋枯病	BA-1 粒 剤, BA-2 粒 剤, BT-1 粒 剤, HM-2022 粉 剤 DL, KUM-021 粉 剤 DL, KUM-023 粉 剤 DL, SKU-2002 粒 剤, YIF-6481 フロアブル, オリブライトスタークル 1 キロ粒 剤, ビームプリ ンスグレート箱粒 剤	コムギ	赤かび病	BAG-010 乳 剤, SYJ-120 SC, サンヨール乳 剤
				赤さび病	BAG-010 乳 剤, SYJ-120 SC, アミスター 20 フ ロアブル, チルト乳 剤 25
				紅色雪腐病	AKD-5061 顆粒水和 剤
				うどんこ病	SYJ-120 SC, ベフラン液 剤 25
	穂枯れ（ごま 葉枯病菌）	KUF-1402 粉 剤 DL, KUM-011 粉 剤 DL, KUM-021 粉 剤 DL, KUM-022 粉 剤 DL,			

本年度は 68 薬剤 378 試験が実施され、延べ 64 薬剤について実用性ありと判定された。育苗箱施用剤の中では、剤型を変更し灌注処理をする 1201 フロアブル、デラウス顆粒水和剤などが目新しい(両剤とも対象はいもち病)。新規成分の単剤では有効成分は非公開となっているが、BAG-010 乳剤がコムギの赤かび病、赤さび病に実用性ありと判定された。また、もみ枯細菌病で実用性ありとされたブイゲット箱粒剤（NNF-9850 粒剤 12/チアジニル 12%）はいもち病、褐条病がすでに実用性ありと判定されている。いもち、紋枯、穂枯れの KUM 関連の薬剤はトリシクラゾールを含む混合剤となっ

表-8 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋 (病害防除: 野菜花き)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
パレイ ショ	軟腐病	アグレプト水和剤	キュウリ	うどんこ病	チ乳剤, ダブルプレー AL, ハチハチ乳剤, プリザード水和剤, リドミル DC 顆粒水和剤
	疫病	SYJ-117 SC		メロン	べと病
	黒あし病	アグレプト水和剤	黒点根腐病		NK-101, TMZ-9911 液剤
	夏疫病	ホライズンドライフロアブル	つる枯病		SYJ-117 SC, オーソサイド水和剤 80, スコア顆粒水和剤
	そうか病	クロルピクリン 80.0%液剤	うどんこ病	MTF-753 フロアブル, SYJ-117 SC, サンヨール液剤 AL, パンチョ TF 顆粒水和剤, ベルクートフロアブル	
ダイズ	斑点細菌病	ドイツボルドー DF, 粉衣用ベアーカスミン	スイカ	菌核病	ベルクートフロアブル
	紫斑病	サンリット水和剤		炭疽病	ベルクートフロアブル
アズキ	灰色かび病	スイッチ顆粒水和剤		うどんこ病	パンチョ TF 顆粒水和剤, ベルクートフロアブル
	菌核病	BJL-994 ドライフロアブル, KUF-1204 顆粒水和剤, トップジン M ソル		カボチャ	うどんこ病
	茎疫病	ランマンフロアブル	ダイコン	軟腐病	カスミンボルドー顆粒水和剤
インゲン	炭疽病	ブロードワン顆粒水和剤	ハクサイ	べと病	SYJ-117 SC, オーソサイド水和剤 80, フェスティバル C 水和剤
	灰色かび病	スイッチ顆粒水和剤		根こぶ病	ランマンフロアブル
	菌核病	スイッチ顆粒水和剤		白さび病	ホライズンドライフロアブル
	根腐病	BJL-861 微粒剤		キャベツ	黒腐病
テンサイ	炭疽病	トップジン M 水和剤	軟腐病	ヨネボン MC フロアブル	
	葉腐病	SYJ-119 SC	べと病	リドミル DC 顆粒水和剤	
ナス	褐斑病	SYJ-119 SC	黒すす病	ポリオキシシン AL 水溶液	
	黒根病	フロンサイド水和剤	苗立枯病 (リゾクトニア菌)	NNF-0025 粉剤	
	青枯病	ルートガード油剤	カリ フラワー	根こぶ病	BJL-861 微粒剤
	灰色かび病	トータレックス顆粒水和剤	ブロッ コリー	根こぶ病	BJL-861 微粒剤
トマト	すすかび病	SYJ-117 SC, ダコニール 1000	イチゴ	角斑細菌病	ビビフルフロアブル
	うどんこ病	SYJ-117 SC, サルファーレシチン SE		灰色かび病	MTF-753 フロアブル, トータレックス顆粒水和剤
	青枯病	NCS 水溶液, TMZ-9911 液剤		うどんこ病	パンチョ TF 顆粒水和剤, ベルクートフロアブル
	疫病	SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, プリザード水和剤	ネギ	さび病	オンリーワンフロアブル, サルバトーレ ME
	灰色かび病	MTF-753 フロアブル, オーソサイド水和剤 80		白絹病	モンカット粒剤
ピーマン	葉かび病	MTF-753 フロアブル, SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, カスミンボルドー顆粒水和剤, ホライズンドライフロアブル	タマネギ	軟腐病	バリダシン液剤 5
	萎凋病	NK-101		べと病	TMF-9911 液剤, アミスター 20 フロアブル, プロポーズ顆粒水和剤, リドミル DC 顆粒水和剤
	褐色根腐病	NCS 水溶液		灰色腐敗病	トップジン M ソル, ベルクートフロアブル
	うどんこ病	MTF-753 フロアブル		灰色かび病 (白斑葉枯病)	リドミル DC 顆粒水和剤, スイッチ顆粒水和剤
	キュウリ	べと病	S-8529 WDG, SB-3621 フロアブル, SYJ-117 SC, テーク水和剤, プリザード水和剤		
		褐斑病	SYJ-117 SC, TMF-9831 顆粒水和剤, リドミル DC 顆粒水和剤		
		炭疽病	テーク水和剤		
		つる割病	ダブルストッパー		
うどんこ病	SB-3621フロアブル, SYJ-117SC, アカリタッ				

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
ニラ	紅色根腐病	ソイリーン	ストック	灰色かび病	ジャストミート顆粒水和剤
ニンニク	紅色根腐病	ソイリーン	トルコギキョウ	根腐病	ソイリーン
アスパラガス	斑点病	ベルクートフロアブル		立枯病	クロピクテープ
レタス	腐敗病	カスミンボルドー顆粒水和剤	ヒマワリ	うどんこ病	サンヨール液剤 AL
	灰色かび病	MTF-753 フロアブル, アミスター 20 フロアブル, ブロードワン顆粒水和剤	キンセンカ	うどんこ病	サンヨール
	菌核病	BJL-994 ドライフロアブル	パンジー	苗立枯れ (ピシウム菌)	NCS 水溶液
フキ	半身萎凋病	BJL-861 微粒剤	ペチュニア	うどんこ病	バイスロイド・バイレトン AL, モスビラン・トップジン M エアゾル
ニンジン	黒葉枯病 (種子消毒)	ベルクート水和剤, ロブラール水和剤	シクラメン	灰色かび病	ジャストミート顆粒水和剤
	しみ腐病	NKD-001	キンギョソウ	灰色かび病	トップジン M スプレー
ハウレンソウ	萎凋病	ダブルストッパー	デルフィニウム	うどんこ病	ポリオキシシ AL 水溶剤
キク	萎凋病	キルバー液剤	サルスベリ	うどんこ病	サンヨール液剤 AL
	立枯病	クロピクテープ, クロルピクリン錠剤, サンメボン油剤, ルートガード油剤			
バラ	黒星病	GL-35, TGA-65 エアゾル, サンヨール乳剤			
	うどんこ病	GL-35, TGA-65 エアゾル			
カーネーション	萎凋細菌病	ルートガード油剤			

110 薬剤について延べ 1,001 課題の試験が実施された。過去 3 年受託件数は減少していたが、業界再編の動きもあり既知化合物同士の組み合わせも多様化し、本年度は前年の件数を 2 割程度上回った。イチゴ角斑細菌病、ニラ・ニンニク紅色根腐病、フキ半身萎凋病、ダイズ斑点細菌病、テンサイ黒根病などには登録薬剤が少なかったため産地からも注目されるであろう。また花き類に対しても多くの対象に実用化判定がされた。

表-9 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋（病害防除：果樹・茶・芝草）

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
ナシ	赤星病	スコア顆粒水和剤, ユニックス Z 水和剤	ブドウ	べと病	S-8529 WDG, リドミル DC 顆粒水和剤
	炭疽病 (葉炭疽)	ストロビードライフロアブル		褐斑病	ベンコゼブフロアブル, ホライズンドライフロアブル, ポリベリン水和剤
	黒斑病	スコア顆粒水和剤		晩腐病	KUF-1202 SE, S-8529 WDG, ポリベリン水和剤
	黒星病	TMF-011 顆粒水和剤, スコア顆粒水和剤	カキ	落葉病	バイオネクト
	輪紋病	SF-0201 水和剤, スコア顆粒水和剤	リンゴ	赤星病	スコア顆粒水和剤, ベンコゼブ水和剤
	うどんこ病	アミスター 10 フロアブル		斑点落葉病	NOC-F 002, スコア顆粒水和剤, バイオネクト, ベルクートフロアブル, ベンコゼブ水和剤
モモ	灰星病	オンリーワンフロアブル, スコア顆粒水和剤, ベルクートフロアブル		褐斑病	MCF-23 WG, デランフロアブル, バイオネクト
	黒星病	オンリーワンフロアブル, サルバトーレ ME, デランフロアブル		黒点病	スコア顆粒水和剤, ベンコゼブ水和剤
	ホモプシス 腐敗病	オンリーワンフロアブル, ベルクートフロアブル		黒星病	スコア顆粒水和剤, ベルクートフロアブル
スモモ	かいよう病	アグレプト水和剤		モニリア病 (治療効果)	サルバトーレ ME, スコア顆粒水和剤
	灰星病	パスワード顆粒水和剤		輪紋病	BJL-001 SE
	黒斑病	バリダシン液剤 5		すす点・ すす斑病	ベンコシャイン水和剤
アンズ	灰星病	マネージ DF		炭疽病	スパットサイド水和剤
ウメ	黒星病	TMF-011 顆粒水和剤		うどんこ病	スコア顆粒水和剤, ベンコシャイン水和剤
	すす斑症	ストロビードライフロアブル	オウトウ	灰星病	MTF-753フロアブル15, サンリット水和剤,

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
オウトウ	灰星病	スコア顆粒水和剤, ベルクートフロアブル		疑似葉腐病 (春はげ症)	パッチコロン水和剤
	炭疽病	オンリーワンフロアブル		葉枯病	0121 フロアブル, バナーマックス液剤, ボディーブロー水和剤
	幼果菌核病	サンリット水和剤		葉腐病 (ブラウンパッチ)	AEF-002 WDG, NF-157 顆粒水和剤, SYJ-128 顆粒水和剤, グリーンエイト顆粒
カンキツ	かいよう病	IC ボルドー 66 D, NF-155 フロアブル, カスミンボルドー顆粒水和剤		葉腐病(ラージパッチ)	SYJ-128 顆粒水和剤, セレントーフ顆粒水和剤
	灰色かび病	NF-151 顆粒水和剤, アミスター 10 フロアブル, ダイマジン水和剤, フルピカくん煙剤, ペンコシャイン水和剤		葉腐病(ラージパッチ) 治療効果	NF-157 顆粒水和剤
	褐色腐敗病	ペンコゼブ水和剤, ランマンフロアブル		葉腐病(ラージパッチ) 予防効果	NF-157 顆粒水和剤
	そうか病	アミスター 10 フロアブル, ダイマジン水和剤		いもち病	グラステン水和剤
	炭疽病	ペンコゼブ水和剤		紅色雪腐病	バナーマックス液剤
	貯蔵病害 (緑青かび病)	トップジン M ゾル		赤焼病	SSF-133 顆粒水和剤, TMF-9911 液剤, ターフトップDF, トルファン
				ピシウム病	ランマンフロアブル
チャ	褐色円星病	オンリーワンフロアブル, サルバトーレ ME, スコア水和剤 10, フロンサイド SC		立枯病 (ゾイシアデクライン)	ヘリテージ顆粒水和剤
	もち病	フリントフロアブル 25		炭疽病	NF-157 顆粒水和剤
	赤焼病	ドイツボルドー DF			
	炭疽病	スコア顆粒水和剤			
シバ	ダラー スポット病	0121 フロアブル, AEF-002 WDG, NF-157 顆粒水和剤, バナーマックス液剤			
	フェアリー リング病	SYJ-128 顆粒水和剤			

落葉果樹では 48 薬剤 234 試験, 寒冷地果樹 (リンゴ・オウトウ) に対しては 28 薬剤 178 試験が実施された。ナシ炭疽病 (葉炭疽) およびオウトウ幼果菌核病に対する登録が待たれる。常緑果樹 (カンキツ) は 18 薬剤 58 試験が実施された。NF-155 は銅剤, NF-151 は新規化合物と既知化合物の混合剤である。チャの試験件数は年々減少しており, 本年度は 8 薬剤 36 試験が実施された。シバについては 16 薬剤延べ 110 試験が実施された。AEF-002 WDG は新規化合物トリチコナゾールを主成分とし, 葉腐病 (ラージパッチ) についても試験継続中である。

表 - 10 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判定された薬剤抜粋 (病害防除: 生物農薬)

作物名	病害虫名	薬剤名	作物名	病害虫名	薬剤名
イネ	もみ枯細菌病	モミゲンキ水和剤	ダイコン	軟腐病	バイオキーパー水和剤
	もみ枯細菌病 (種子消毒)	KNB-050 水和剤, モミゲンキ水和剤	カブ	軟腐病	バイオキーパー水和剤
	苗立枯細菌病 (種子消毒)	KNB-050 水和剤, モミゲンキ水和剤	ブロッコリー	軟腐病	バイオキーパー水和剤
ピーマン	うどんこ病	ボトキラー水和剤	イチゴ	灰色かび病	SB-910 水和剤
				うどんこ病	SB-910 水和剤
キュウリ	うどんこ病	SB-910 水和剤	レタス	菌核病	TMBIO-9941 顆粒水和剤
メロン	うどんこ病	SB-910 水和剤			

15 薬剤についてのべ 145 試験が実施された。イネの種子消毒, 果菜類の灰色かび病, うどんこ病を中心に, 水稲本田散布試験も見られるようになった。本年度初めて実用性ありと判定された薬剤は 2 剤あり, イネ種子消毒剤の KNB-050 水和剤 (*Pseudomonas aureofaciens* 10⁷cfu/g) は浸種前 200 倍 24 時間または 20 倍 10 分間の浸漬処理を行う。またレタス菌核病に対して実用性ありと判定された TMBIO-9941 顆粒水和剤 (*Coniothyrium minitans* 1×10⁶cfu/g) は定植 2~3 か月前に土壌混和し成分である糸状菌を定着させる。

表 - 11 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋（虫害防除：イネ・ムギ）

作物名	害虫名	薬 剤 名	作物名	害虫名	薬 剤 名
イネ	ウンカ類	ビルダープリンス粒剤（AMH-213 粒剤） ^{*2} 、アドマイヤー顆粒水和剤 ^{*4} 、BMC-1 ^{*5} 、MTI-446 液剤 ^{*6} 、MTI-446 粉剤 DL 35 ^{*6} 、TI-435 H ブラシンバリダ粉剤 DL ^{*6} 、TI-435 H ブラシン粉剤 DL ^{*6} 、TI-435 H 粉剤 DL ^{*6} 、ダントツフロアブル ^{*6} 、MTI-446 液剤 ^{*7}			435 H ブラシン粉剤 DL ^{*6} 、TI-435 H 粉剤 DL ^{*6} 、ダントツフロアブル ^{*6} 、ダントツ粒剤（TI-435 粒剤） ^{*6} 、デラウストレボンフロアブル ^{*7} 、MTI-446 粒剤 1 ^{*8}
	セジロウンカ	MTI-446 粒剤 2 ^{*3} 、AVI-382 SC ^{*6}	イナゴ類		TI-435 H 粉剤 DL ^{*6}
	ヒメトビウンカ	AVI-382 SC ^{*6}	ニカメイチュウ		ダントツ箱粒剤 ^{*3} 、オリブライトスタークル 1 キロ粒剤 ^{*8}
	ツマグロヨコバイ	バリアード箱粒剤 ^{*3} 、アドマイヤー顆粒水和剤 ^{*4} 、BMC-2 ^{*5} 、MTI-446 液剤 ^{*6} 、MTI-446 粉剤 DL 35 ^{*6} 、TI-435 H ブラシンバリダ粉剤 DL ^{*6} 、TI-435 H ブラシン粉剤 DL ^{*6} 、TI-435 H 粉剤 DL ^{*6} 、ダントツフロアブル ^{*6} 、MTI-446 1 キロ粒剤 ^{*8}	コブノメイガ		ビルダープリンス粒剤（AMH-213 粒剤） ^{*2}
	カメムシ類	AVI-382 SC ^{*6} 、MTI-446 液剤 ^{*6} 、MTI-446 水溶剤（顆粒） ^{*6} 、MTI-446 粉剤 DL 35 ^{*6} 、TI-435 H ブラシンバリダ粉剤 DL ^{*6} 、TI-	イネドロオイムシ		Dr. オリゼスタークル箱粒剤 ^{*2} 、ダントツ水溶剤 ^{*4} 、BMC-1 ^{*5}
			イネミズゾウムシ		ダントツ水溶剤 ^{*4} 、MMH-2201 顆粒水和剤 ^{*5} 、ウィンアドマイヤー顆粒水和剤 ^{*6} 、パダンオリゼメート顆粒水和剤 ^{*5}
			イネヒメハモグリバエ		ウィンアドマイヤー箱粒剤 ^{*3}
			イネシガラセンチュウ		ジャッジ箱粒剤 ^{*3}

^{*1} 播種時、^{*2} 緑化期、^{*3} 移植時、^{*4} 移植時灌注、^{*5} 側条施用、^{*6} 散布、^{*7} ブームスプレーヤー散布、^{*8} 湛水散布。平成 14 年度はイネ・ムギ用に 72 剤、延べ 596 件の試験が受託され、例年より多かった平成 13 年度よりも増加していた。単剤で初めて実用性ありの判定を受けた化合物はなかったが、殺虫殺菌混合剤では実用性判定を受けた対象が多く、現場での充実が期待される。

表 - 12 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋（虫害防除：野菜花き）

作物名	害虫名	薬 剤 名	作物名	害虫名	薬 剤 名
パレイショ	アブラムシ類	AVI-382 SC、アクタラ粒剤 5	トマト	アブラムシ類	MTI-446 粒剤 1
	ジャガイモシストセンチュウ	MKI-245 粒剤、ラグビー MC 粒剤		コナジラミ類	MTI-446 粒剤 1
カンショ	コガネムシ類	ダントツ粒剤		シルバーリーフコナジラミ	ハチハチ乳剤
サトイモ	ネグサレセンチュウ類	ソイリーン		ミカンキイロアザミウマ	ハチハチ乳剤
ヤマノイモ	ハダニ類	カネマイトフロアブル		ハスモンヨトウ	カウンター乳剤
	ネコブセンチュウ類	ソイリーン		マメハモグリバエ	カウンター乳剤
ダイズ	アブラムシ類	アクタラ顆粒水溶剤、ウララ DF		ハモグリバエ類	スピノエース顆粒水和剤
	カメムシ類	MTI-446 水溶剤（顆粒）		トマトサビダニ	コテツフロアブル、サンマイトフロアブル、マイトコーネフロアブル
	マメシクイガ	エルサン粉剤 2 DL		ネコブセンチュウ類	TMZ-9911 液剤
	ネキリムシ類	カルホス微粒剤 F	ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	MTI-446 粒剤 1
	ハスモンヨトウ	NNI-0001 顆粒水和剤	キュウリ	アブラムシ類	ハチハチ乳剤
インゲンマメ	マメハモグリバエ	カスケード乳剤		アザミウマ類	MTI-446 水溶剤（顆粒）
ソバ	鳥害防止	キヒゲン R-2 フロアブル		ハダニ類	NC-1111 くん煙剤
テンサイ	ヨトウムシ	カウンター乳剤、ベイオフ ME 液剤、マッチ乳剤	メロン	シルバーリーフコナジラミ	ハチハチ乳剤
サトウキビ	メイチュウ類	NC-508 粒剤		アザミウマ類	ハチハチ乳剤
ナス	ミナミキイロアザミウマ	MTI-446 粒剤 1		ハダニ類	NC-1111 くん煙剤
	ハスモンヨトウ	カウンター乳剤	ニガウリ	ミナミキイロアザミウマ	アドマイヤー顆粒水和剤
	ハダニ類	NC-1111 くん煙剤		ネコブセンチュウ類	ネマトリンエース粒剤
	ネコブセンチュウ類	ソイリーン			

作物名	害虫名	薬 剤 名	作物名	病害虫名	薬 剤 名
ダイコン	コナガ	NNI-0001 顆粒水和剤	レタス	アブラムシ類	MTI-446 水溶剤(顆粒), ダントツ水溶剤, ハチハチ乳剤
	ハイマダラノメイガ	NNI-0001 顆粒水和剤		ハスモンヨトウ	NNI-0001 顆粒水和剤
	アオムシ	プレオフロアブル		オオタバコガ	コナガコンープラス
ハクサイ	アブラムシ類	MTI-446 水溶剤(顆粒), アクタラ粒剤 5		ナモグリバエ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	コナガ	アクタラ粒剤 5, ハチハチフロアブル	ホウレンソウ	モモアカアブラムシ	モスビラン水溶剤
	アオムシ	アクタラ粒剤 5	オクラ	ネコブセンチュウ類	アオバ液剤
	ハスモンヨトウ	NNI-0001 顆粒水和剤, カウンター乳剤	シソ	コナジラミ類	ラノーテープ
キャベツ	アブラムシ類	アクタラ粒剤 5	レンコン	カンザワハダニ	アカリタッチ乳剤
	ハイマダラノメイガ	NNI-0001 顆粒水和剤, アクタラ粒剤 5		アブラムシ類	IKI-220 粒剤, アクタラ粒剤 5
	アオムシ	MTI-446 水溶剤(顆粒), MTI-446 粒剤 1, SI-0009 乳剤	キク	ハモグリバエ類	ハチハチ乳剤
	ハスモンヨトウ	NNI-0001 顆粒水和剤	ハダニ類	ハダニ類	シーマージェット
チンゲンサイ	コナガ	プリンスフロアブル	バラ	アブラムシ類	YE-621 液剤
コマツナ	アオムシ	GL-28 (乳剤)	ユリ	ワタアブラムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
イチゴ	アブラムシ類	YE-621 液剤	ストック	コナガ	パダン SG 水溶剤
	コナジラミ類	ラノーテープ	ハボタン	アオムシ	バイスロイド・バイレトン AL
	ハダニ類	NC-1111 くん煙剤	トルコギキョウ	シロイチモジヨトウ	マトリックフロアブル
ネギ	ネギアザミウマ	MTI-446 粒剤 1, ハチハチ乳剤	ヒマワリ	鳥害防止	キヒゲン R-2 フロアブル
	シロイチモジヨトウ	NNI-0001 顆粒水和剤	カモミール	ワタアブラムシ	YE-641 AL
	ネギハモグリバエ	MTI-446 粒剤 1	スズラン	ネグサレセンチュウ類	ネマトリンエース粒剤
アスパラガス	ヨトウムシ	フローバック DF	カエデ	イラガ類	サンヨール液剤 AL
	オオタバコガ	デルフィン顆粒水和剤	マツ	アブラムシ類	マツグリーン液剤
			カナメモチ	イラガ	サンヨール液剤 AL

平成 14 年度の依頼は 141 剤, 延べ 1,503 件の試験が実施され, 昨年と比べると薬剤数は変わらないものの, 試験件数は 200 件ほど減少した。本年初めて実用性ありの判定を受けた化合物は TMZ-9911 液剤, SI-0009 乳剤だった。登録農薬がないか少ない品目の, ソバ: 鳥害防止, ニガウリ: ミナミキイロアザミウマ・ネコブセンチュウ類, コマツナ: アオムシ, レタス: ナメクジ類, オクラ: ネコブセンチュウ類, シソ: コナジラミ類, ストック: コナガ, ハボタン: アオムシ, トルコギキョウ: シロイチモジヨトウ, ヒマワリ: 鳥害防止, ベツニア: ナメクジ類, カモミール: ワタアブラムシ, スズラン: ネグサレセンチュウ類, カエデ: イラガ類, マツ: アブラムシ類, カナメモチ: イラガに「実用性あり」の判定が出された。

表 - 13 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤・抜粋 (虫害防除: 果樹・チャ・シソ)

作物名	害虫名	薬 剤 名	作物名	害虫名	薬 剤 名
ナシ	アブラムシ類	AVI-382 SC, MTI-446 水和剤	ウメ	ケシキスイ類	フォース粒剤
	クワコナカイガラムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)	ブドウ	チャノキイロアザミウマ	MTI-446 水溶剤 (顆粒), MTI-446 水和剤, バリアード顆粒水和剤
	カメムシ類	S-1793 WDG		ハダニ類	オサダグフロアブル
	ゲムシ類	ファイブスター顆粒水和剤	カキ	フジコナカイガラムシ	MTI-446 水溶剤 (顆粒)
	シンクイムシ類	S-1067 WDG, S-1793 WDG		カメムシ類	S-1793 WDG
	ハダニ類	オオナタフロアブル		チャノキイロアザミウマ	ALI-022 顆粒水溶剤
モモ	アブラムシ類	ハチハチフロアブル		カキクダアザミウマ	ALI-022 顆粒水溶剤
	カメムシ類	MTI-446 水溶剤(顆粒), アクタラ顆粒水溶剤, ダントツ水溶剤	イチジク	カキノヘタムシガ	ALI-022 顆粒水溶剤, アクタラ顆粒水溶剤
	シンクイムシ類	ハチハチフロアブル		フジコナカイガラムシ	アブロードエースフロアブル
	モモハモグリガ	スピノエースフロアブル, ハチハチフロアブル, マトリックフロアブル		カンザワハダニ	粘着くん水和剤

作物名	害虫名	薬 剤 名	作物名	害虫名	薬 剤 名
イチジク	ネコブセンチュウ類	アオバ液剤	カンキツ	ミカンハモグリガ	SYJ-101 顆粒水和剤, スピノエースフロアブル, モスピラン粒剤(苗木)
リンゴ	アブラムシ類	MTI-446 水和剤, SYJ-101 顆粒水和剤, コロマイト乳剤, 粘着くん水和剤		コアオハナムグリ	アクトラ顆粒水溶剤
	クワコナカイガラムシ	DAI-0011 72%顆粒水和剤, MTI-446 水溶剤(顆粒), アクトラ顆粒水溶剤		カミキリムシ類	アクトラ顆粒水溶剤, SYJ-101 顆粒水和剤
	ハマキムシ類	S-1067 WDG, SI-0009 乳剤, SYJ-101 顆粒水和剤, デルフィン顆粒水和剤		ミカンハダニ	OK-5204 フロアブル, オオナタフロアブル, 粘着くん水和剤
	シンクイムシ類	AVI-382 SC, NNI-0001 顆粒水和剤, S-1067 WDG, SYJ-101 顆粒水和剤		チャノホコリダニ	レターデン水和剤
	キンモンホソガ	AVI-382 SC		ミカンサビダニ	オオナタフロアブル, オサダンフロアブル
	ヨモギエダシャク	コテツフロアブル, ファイブスター顆粒水和剤	マンゴー	アザミウマ類	アドマイヤー顆粒水和剤
	リンゴハダニ	オオナタフロアブル, 粘着くん水和剤	チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	ALI-022 顆粒水溶剤, SYJ-101 顆粒水和剤
	ナミハダニ	オオナタフロアブル		チャノキイロアザミウマ	ALI-022 顆粒水溶剤, AVI-382 SC
	ハダニ類	粘着くん水和剤		チャノコカクモンハマキ	サブリーナフロアブル, ファルコンフロアブル
	リンゴサビダニ	コロマイト乳剤		チャハマキ	NNI-0001 顆粒水和剤, スピノエースフロアブル, テルスターフロアブル
	野そ	ツリーセーフフロアブル		チャノホソガ	SYJ-101 顆粒水和剤
オウトウ	ウメシロカイガラムシ	アブロードフロアブル		ヨモギエダシャク	ファルコンフロアブル
	オウトウショウジョウバエ	MTI-446 水溶剤(顆粒), S-1067 WDG		ハスモンヨトウ	アフーム乳剤
	ナミハダニ	ダニサラバフロアブル		チャノホコリダニ	カスケード乳剤
カンキツ	アブラムシ類	AVI-382 SC, MTI-446 水和剤, ウララ DF		チャノナガサビダニ	オサダンフロアブル
	コナカイガラムシ類	MTI-446 水溶剤(顆粒), MTI-446 水和剤, アドマイヤー顆粒水和剤	シバ	シバツトガ	ダイアジノン粒剤 10
	アカマルカイガラムシ	アドマイヤー顆粒水和剤		タマナヤガ	カリプスター, リブレース MC
	カメムシ類	AVI-382 SC, ダントツ水溶剤		スジキリヨトウ	KI-78
	ミカンキイロアザミウマ	DAI-0011 72%顆粒水和剤, ダントツ水溶剤, ハチハチフロアブル		コガネムシ類	KI-78, タフバリア粒剤 0.5, フルスウィング, リブレース MC
	チャノキイロアザミウマ	ALI-022 顆粒水溶剤, AVI-382 SC, SYJ-101 顆粒水和剤		シバオサゾウムシ(幼虫)	KI-78, ビートルコップ粒剤, フルスウィング
				シバオサゾウムシ(成虫)	NC-509 粒剤

平成 14 年度の落葉果樹分野では 45 薬剤が依頼され、延べ 244 件の試験が受託された。寒冷地果樹分野では 35 剤が依頼、延べ 181 件が受託、常緑果樹分野では 36 薬剤が依頼、延べ 188 件が受託、茶分野では 24 薬剤が依頼、延べ 105 件が受託、芝草分野では 10 剤が依頼、延べ 48 件が受託された。芝草分野の試験件数が減少したほかは、ほぼ前年並みの試験状況であった。これらの分野では、新規化合物のダニサラバフロアブルがオウトウ：ハダニ類で、SI-0009 乳剤がリンゴ：ハマキムシ類で、初めて実用性ありの判定を受けていた。登録農薬がないか少ない品目では、ウメ：ケシキスイ類・イチジク：フジコナカイガラムシ・ネコブセンチュウ・リンゴ：ヨモギエダシャク・野そ・マンゴー：アザミウマ類に「実用性あり」の判定が出された。

表-14 平成 14 年度総合判定で実用性ありと判断された薬剤 (虫害防除：生物農薬)

作物名	害虫名	薬剤名	作物名	害虫名	薬剤名
ナス	アブラムシ類	アフィデント	キャベツ	コナガ	NBL-2
	コナジラミ類	プリファード水和剤	イチゴ	アブラムシ類	CAS-007
	アザミウマ類	RSTM-1		アザミウマ類	タイリク
	ミカンキイロアザミウマ	タイリク		ハスモンヨトウ	NK-103
ピーマン	コナジラミ類	エンストリップ	バラ	ハダニ類	カブリダニ PP
	アザミウマ類	スリパンス、ボタニガード ES	リンゴ	リンゴコカクモンハマキ	BCGV-01
キュウリ	アザミウマ類	RSTM-1	シバ	シバツトガ	バイオトピア
	ナミハダニ	CAS-005		スジキリヨトウ	バイオトピア

平成 14 年度の生物農薬分野では、ほぼ前年並みの 32 薬剤が依頼され、延べ 144 件の試験が受託された。多数の天敵昆虫を中心に、安定した開発が続けられている。

発行図書

昆虫の飼育法

湯嶋 健・釜野静也・玉木佳男 共編 B5 判 本文 400 頁

定価 12,232 円税込み (本体 11,650 円) 送料サービス

飼育施設・人工飼料の調整・飼育虫の病気対策など共通性のある問題を総論で解説し、各論では 126 種の虫ごとに材料・採集・餌・作業計画・注意事項と問題点・参考文献など実際に飼育方法を解説した書です。

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。
社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11
郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03)3944-1561 (代) FAX (03)3944-2103 メール: order@jppa.or.jp

！好評の本誌「植物防疫」の特別増刊号！

各 B5 判

No. 2 天敵微生物の研究手法

岡田斉夫 編者代表 222 ページ 送料 140 円
天敵微生物の研究手法 (研究施設、天敵微生物の探索・同定・増殖等) を詳しく解説。 定価 3,058 円 (本体 2,913 円)

No. 4 植物病原菌の薬剤感受性検定マニュアル

日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会 編 172 ページ 送料 124 円
作物病害防除では耐性菌に関しては避けて通れない問題である。その耐性菌の確認する検定方法を詳しく解説。 定価 2,800 円 (本体 2,667 円)

No. 5 日本産植物細菌病の病名と病原細菌の学名

西山幸司 著 227 ページ 送料 132 円
我が国で発生する植物細菌病の病名・学名 (新・旧)・報告者・文献名などを網羅いたしました。 定価 3,200 円 (本体 3,048 円)

No. 6 植物防疫誌にみるカメムシ類

昭和 22 年の創刊号から平成 9 年までの関係論文全 61 編を年代順に再収録いたしました。 278 ページ 送料 148 円
定価 2,940 円 (本体 2,800 円)

No. 7 植物防疫誌にみるフェロモン研究

1968 年に誌面に登場し、1999 年までのフェロモン研究に関する論文 80 編を年代順に再収録しました。 381 ページ 送料 180 円
定価 3,150 円 (本体 3,000 円)

お申し込みは直接当協会へ、前金 (現金書留・郵便振替) で申し込むか、お近くの書店でお取り寄せ下さい。
社団法人 日本植物防疫協会 出版情報グループ 〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11
郵便振替口座 00110-7-177867 TEL (03)3944-1561 (代) FAX (03)3944-2103 メール: order@jppa.or.jp